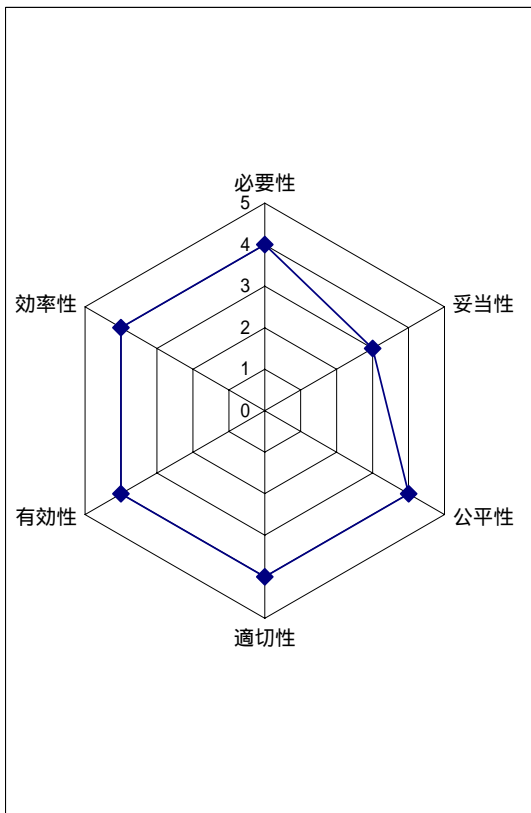


事務事業名	環境にやさしい農業推進事業	担当部局	市長部局 産業経済部
基本目標	豊かな暮らしを育む活力ある産業づくり(産業)	担当課名	農政課
施策体系	美しい田園を育む交流型農業の振興	担当係名	農業係
施策	環境にやさしい農業を推進する		

1. 事業内容

事業本来の目的と具体的内容	性フェロモン剤を活用し、減化学農薬栽培を行い、環境保全型園芸農業の地域普及を推進と、消費者に安全・安心な農作物を供給することを目的とする。		
事業の期間(開始/終了)	99年 99月/	99年 99月	
根拠法令、条例、規則など			
事業が対象としている人(モノ)	圃場・園芸作物生産農家		
具体的な活動内容	フェロモン剤等資材の購入、トラップ設置農家の選定・設置		
	農協・普及センター・市の連携による害虫発生状況のデータの収集及び農家への情報提供		
	のデータの分析により、市内一斉防除の日程の決定と市内全農家への広報周知		
事業の成果	生産者の減農薬栽培に対する意識が向上する。		
	害虫の発生サイクルの予測が可能になり適期防除により害虫の発生を抑えることができる。		
	により農薬散布回数を減らすことができる。		
	結城産園芸作物の市場価値が高まる。		

2. 事業の評価



項目	説明
必要性	4 依然、必要性が高い 5月29日の食品衛生法の改正からもわかるように、消費者の安全・安心な農産物を求める声は年々大きくなっている。よって、環境保全型農業・減農薬栽培の実践は不可欠である。
	3 どちらとも言えない JA等団体で行ってもよいが、受益者が部会員だけに偏ってしまうので、あまりよくない。市・普及センターが関与し、指導していくべきである。
公平性	4 目的とした対象者に対しては、概ね広く便益を提供している 発生予察装置を市内全域に設置しており、農家組合長を通じ、全農家に害虫発生データの提供と一斉防除の呼びかけを行っており、公平性は保っている。
	4 現在のやり方(手段)が一般的であり、特に問題はない 現在は発生予察装置を使いおこなっているが、さまざまなフェロモン剤があり、開発もされているので、毎年検討を要す。
有効性	4 概ね目標水準に達している 害虫が多発し、一斉防除の効果はあまりなかったが、害虫の発生状況を全農家に対し周知できたことは大きい。
	4 効率は徐々に高まっている(コストは徐々に下げられている) 市内全農家を対象としたので、コスト効率・効果は高まっている。

総合評価	消費者から安心、安全な農作物の提供が求められ、環境保全型農業への意識が高まっているなか本事業の必要性は高い。本年度から一斉防除適期の広報を全農家に広め、公共性も上がっている。
------	---

3. 今後の事業の方向性

所属長判断	事業の方向性判断	短期的方向	拡充(人・モノ・カネ等の拡充)	中長期的方向	改善(質的充実・効率化)
	説明	消費者が安心して作物を食べられることが最も重要であり、買ってもらえる物づくりこそが耕作者に課せられた課題である。この事業によって、農薬の低減につながることを期待できる。よって、事業の拡充を生産者と関係機関で図る。			
決定権者判断	決定内容	拡充(人・モノ・カネ等の拡充)			
	説明	環境保全型農業を推進するため有効な事業であり、継続的に改善策を講じながら、その対象を含めて拡充してゆく。			